いくぞ、万博。

会期中「大阪ウィーク」などに出展し市の魅力を PR

4月13日(日)、日本では平成17年の愛・地球博以来、20年ぶりとなる国際博覧会(=万博)がいよいよ開幕。会期中、春・夏・秋の3期にわたって「祭」をテーマに大阪の活気や大阪人のパワーを国内外へ発信するイベント「大阪ウィーク」が開催される。

本市は複数の企画で出展を予定しており、枚方の食や観光、歴史、伝統文化、産業、技術などの様々な魅力をPRすることで、国内外からの誘客を図り、地域経済の活性化やまちへの愛着醸成を図る。

市の担当者は、「国内外から 2800 万人以上の来場が見込まれる万博をきっかけに、一人でも多くの人に枚方のことを知ってもらい、訪れてもらえるよう、市民・事業者・行政が一丸となって市の魅力をPRしていきたい。」と意気込みを語る。

★5月18日(日) 関西医科大学 健康長寿・未来医療の展示・体験

がん領域における光免疫療法や匂いによって免疫機能を活性化する感覚創薬技術の実用化など独自の取り組みを紹介。ヒトの細胞観察や外科手術技術の体験、ロボット手術のVR体験などのキッズセミナーも開催する。



◆キッズセミナー【参加者募集中】

対象は小学4年生~6年生。

無料(子どもと保護者各1人を同万博へ招待)。

4月24日までに同大学ホームページ(右記コード)のフォームで同大学教育研究企画室へ。抽選で30人。



★7月27日(日) 日本一アツい街、枚方の盆踊りを体感しよう

河内音頭の源流で、大阪府無形民俗文化財(記録選択)の交野節と、万博首長連合が主導する「#万博音頭プロジェクト」の第1弾として交野節の歌と踊りを現代風にアレンジした「万博音頭交野節編」を市内の盆踊りチーム「スターダスト河内」が披露する。



★7月29日(火)~30日(水)、9月13日(土)~15日(祝) "できない"を楽しもう!不器用 FACTORY

不器用でも楽しめるワークショップやものづくり企業がモチーフのオリジナルトレーディングカードなどで、遊びながら技術を学べるイベントを行う。



★7月29日(火)~30日(水) 「くらわんか」でおもてなし

江戸時代に東海道の枚方宿や淀川舟運のくらわんか舟で培われた 枚方独自の「おもてなし文化」を再現。枚方宿で人気のかき氷(写真) などの名物や、枚方の伝統食、特産品などを提供し、枚方の魅力を発 信する。



★8月3日(日) 「みんなで創ろう!この街の未来」プロジェクト

市内の子どもたちが、絵本・切り絵作家のたけうちちひろさんと一緒に市内企業等から提供された廃材などを活用し、枚方の巨大地図や「枚方にあったらいいな」と思う建物・お店・乗り物などを複数回にわたるワークショップで制作。万博会場では地図上にそれらを配置して作った「未来の枚方のまち」を展示する。



みんなで削ろう!この街の未来

★9月5日(金) 市立中学校合同吹奏楽

公募で集まった中学生で合同バンドを結成。府内市町村の観光大使など実力派アーティストによる多彩な音楽が披露されるステージで演奏する。



★9月14日(日)~15日(祝) 地産地消の新しい食文化を発信

淀川河川敷の保全活動で出たヨシの繊維くずや穂谷の竹林保全活動で出た竹チップで作った堆肥を使い、大阪黒菜(くろな)を栽培。同じく市内で採れたトマトなども使い、ラーメン(写真①)やバオズ(中華まん)(写真②)、葛で作られたアイスバー(写真③)などを提供する。



写真(1)



写真②



写真③

★9月15日(祝) 枚方市のPBLを世界に

自ら課題を発見し解決する能力を養う課題解決型学習 (PBL) に関し市立中学校の生徒が 日頃の学習成果を世界に向けて発表する。

★LOCAL JAPAN 展にも出展

「大阪ウィーク」の他にも、「2025 年日本国際博覧会とともに、地域の未来社会を創造する首長連合」が主催者となる「Resolution of LOCAL JAPAN 展 ~地域が創る日本と地球のいのち輝く未来~」が実施される。これは大阪・関西万博で実施される自治体参加催事として、都道府県の枠を越えて基礎自治体が共創する唯一の催事であり、枚方市は神奈川県箱根町、静岡県三島市、大阪府和泉市ととも



に、宿場や旧街道、浮世絵といった江戸時代の文化を軸としたブースを設え、淀川舟運や 枚方宿などに関する情報発信を行う。

開催期間:7月28日(月)~31日(木)

★「大阪ウィーク」及び「LOCAL JAPAN 展」については、 市ホームページ参照 (右記コード)



大阪ウィーク



LOCAL JAPAN 展

<お問い合わせ>

総合政策部 政策推進課 **2**072-841-1149 Fax072-841-3039